

令和6年度 第8回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和7年2月25日（火）午後7時～午後8時30分
場 所	さぬき市役所 302会議室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計4名 向井審議監 プロジェクト推進室：大山室長、原田室長補佐、谷本主査
欠席者	なし
傍聴者	1名
次第	1 開会 2 移住相談支援体制のあり方について 3 その他 4 閉会
配布資料	次第
発言者	意見概要
座長	前回、前々回と移住について話し合ってきた中で、さぬき市には支援制度が充実している一方で見せ方の部分がもったいないということが分かった。また仕事で言えば、雇用や働く場所がないことも分かった。また、今日受けた取材の記者の方もさぬき市の移住支援制度は、県内だとトップクラスに手厚いということを言われていて、客観的に見ても多分そうなのだと思う。本当に見せ方の部分でパッケージ化に近いかもしれないが、地域や行政が移住者を迎えていることをうまくまとめることができれば良い形になると思う。今日はコワーキングスペースの整備に当たって補助制度があるかどうかを調べていただいたのでその共有からお願いしたい。
事務局	コワーキングスペースの整備に対する支援制度はいくつかあり、まず、「地方創生テレワーク交付金」や「新しい地域経済、生活環境創生交付金」は国費が半分出る制度になっている。また、「ローカル10000プロジェクト」は地域金融機関と連携して実施する事業であり、融資と補助金を組み合わせると大体半分くらいは補助される制度がある。あと、経済産業省関係で、比較的規模が小さい事業に対して「小規模事業者持続化補助金」があり200万円が上限で3分の2の補助がある。規模が大きいものでは「事業再構築補助金」があり3,000万円が上限で2分の1の補助がある。
座長	移住支援制度に関しては、市長への報告に向けて情報をまとめていきたい。  (報告会資料作成)

座長	徳島文理大学の移転に伴い空きマンションやアパートをどうするのかを打ち出すことができれば注目を浴びやすいと思う。そのあたりの話も市長への報告に組み込めると良いと思う。
委員	市議会でも跡地の利活用に対する質問があったが、所有している徳島文理大学としては手放すつもりはなく、一部の機材については志度キャンパスに置いたままで使うという話も聞いたことがある。
座長	目次を議論したい。ワンストップ窓口への問い合わせ件数はいくらか。
事務局	4件だ。
座長	それぞれ提案内容の概要や提案者が県内か県外かを示せば提案の拡充に繋がると思う。移住サポート体制についてはどうか。
委員	議論がなぜ移住に辿り着いたのかの説明はあった方が良いと思う。また、移住体験ハウスが抱える問題点や現状を共有しておいた方が良いと思う。
座長	先日の、移住体験ハウスが予約で埋まっていて利用できないので地元の不動産屋を頼って市内を見て回ることにしたという話を聞いた。移住意欲ある方に対応ができないことはもったいない気がする。そんな理由でさぬき市への移住を諦めている人も一定数いる気がする。また、シンプルに移住支援制度が充実しているにもかかわらず、うまく伝わっていないということも課題の一つだと思う。
委員	移住体験ハウスの予約状況をみると津田は3月までは1週間や10日くらいのスパンで毎週入っている一方で4月から3ヶ月予約を取っている方もいる。多和は長い方で4週間くらいだが割とコンスタントに予約が入っている。
座長	事例紹介にロカキャリを入れてはどうか。
委員	最後にさぬき市の今後の展望を入れてはどうか。
座長	環境的要因として徳島文理大学の移転と瀬戸芸をどこかに盛り込みたい。瀬戸芸については終了後に移住者が増えることが各島で起こった事象でもある。
委員	瀬戸芸を盛り込むことは大きな影響力があると思う。
座長	確かにタイミング的にはちょうど良いと思う。こういう環境的要因があるので移住支援サポート体制を見直す絶好のタイミングであるというメッセージにもなると

	<p>思う。あと、さぬき市のホームページをリニューアルする際に移住サイトである「ええとこさぬき」のテイストを見直すことも提案できる。また、移住相談の窓口体制の一本化が考えられるがそれはどうすれば良いか。</p>
事務局	<p>さぬき市への移住を考えている潜在的な数はどれくらいなのかが分からない。</p>
座長	<p>それと言うとロカキャリでは年間の移住相談の件数や移住数を公表しているので指標にはなと思う。</p>
委員	<p>さぬき市限定ではなくても瀬戸内方面に移住したい人はかなりいると思う。その人たちがさぬき市と繋がってもらえるような窓口を作ってはどうか。</p>
委員	<p>やはり注目度が高いのは海があることだと思う。</p>
座長	<p>移住のタイミングとして多いのは転職の時ともう一つは子どもができた時だと思う。子どもが小学校に入る前に自然のあるところで過ごさせたい方が最近多いと思う。</p>
事務局	<p>仕事についてはどうか。</p>
座長	<p>例えば、東かがわの手袋産業は人手不足のところと年齢が若返っているところと今二極化していると思う。</p>
委員	<p>職種というよりは環境だと思う。柔軟で変化に対応できる会社は若返っていると思うし、一方でレトロなスタイルを維持する会社は昔のまま変わっていないと思う。</p>
座長	<p>オフィスがきれいになるだけでも人は集まる。工場系のところでも制服をリニューアルしただけで応募が増えたところもある。あと、さぬき市なら高松市の企業も就職の範囲内になるので、暮らすのはさぬき市が良いという立地的なメリットがあるのでマッチングはしやすいと思う。</p>
委員	<p>例えば1Kの家賃の相場が3万円と考えた時に高松市ならトイレとお風呂一体となっているユニットバスの物件が多い。風呂なし・トイレなしもあるぐらいだ。さぬき市での3万円の物件とではクオリティが違う。</p>
事務局	<p>職業紹介が実績を出せば市の就職サポートセンターのあり方も考えないといけない。</p>
委員	<p>だから他市では外注しているのかもしれない。</p>

座長	民間へ委託することで3人体制が2人体制や1人体制になりスリム化しつつ、結果は残せることがベストだと思う。市として経費を下げつつ、結果は1.5倍を目指せるといったイメージだ。
事務局	民間への委託は移住体験ハウスも含めた話なのか。
座長	移住体験ハウスは市が借り上げている物件なので運営は市のまま残し、マッチングまでの面接や受付などを民間側がすることも一つあると思う。今までの移住施策に係る予算の主なものは移住フェアや補助金だと思うが、規模は小さいが簡易な窓口業務やオンライン対応を全部民間に委託することも考えられる。今回、ホームページがリニューアルされるので移住サイトについても提案できると思う。移住や観光の動画はどれくらいの予算で作成しているのか。
事務局	額は分からない。
座長	移住パンフレットも公募していたが、単発というよりかは継続して依頼できると良いと思う。
事務局	トータルで考えると、ある程度民間にお願いした方がうまくいく気がする。
座長	流山市はマーケティング課を置いていて事業を民間から公募している。湯沢市の事例で言えば移住支援業務を民間委託し、地域おこし協力隊に移住促進業務を担わせている。
委員	さぬき市では過去に移住促進がミッションの地域おこし協力隊はいたのか。
事務局	移住促進がミッションの隊員はこれまでにない。
座長	ソフト事業の取組を始める場合はどうすれば良いのか。
事務局	事例みたいなのがあれば説明しやすいと思う。
座長	民間委託された事例であれば先程から話に出ている湯沢市の例がある。
事務局	最終形と段階的に取り入れていく部分を整理できれば良いと思う。他にも事例はあるのか。
座長	地域おこし協力隊とコワーキングスペースとをセットにした受け皿を整備してい

	<p>るところや移住コンシェルジュ業務とコワーキングスペースの整備をしているところもある。提案としては、キラボシを最終形態として何パターンか段階を分けてできると良いと思う。就職活動であれば色々な情報が出てくるが、移住については他の人がこんな風をしているという情報はなかなか聞けない。津田の協議会がやっていることは人材や仕事の紹介といったことになる。移住の窓口を民間委託すればしかるべき人と繋がるということが自然に発生するのではないかと考えている。移住の際によく聞かれることは車の問題だが、今、協議会に移住の相談が来れば地元自動車屋を紹介しているが、そのような感じで移住窓口業務から繋がりができると思う。</p>
委員	<p>具体的にどんなイメージをさぬき市に持っている人が多いのか。</p>
座長	<p>車がないと大変なイメージは持っているみたいだ。</p>
委員	<p>東京の都心に住んでいる方の田舎のイメージは高松市らしい。</p>
座長	<p>高松市の市街地と屋島、それからさぬき市の志度の区別がつかず、生活しやすさの違いが分からないと思う。次回までに、事務局の方でこれまでワンストップ窓口相談のあった企業の内、本社が県外か県内か、また、市内かどうかといったことと提案内容をそれぞれ簡単にまとめていただきたい。今回は、移住業務全体の中で民間に委託できる部分の切り分けを行いたい。どこまでやるかは市長との会話を通じて考えていきたい。</p>
事務局	<p>官民連携の窓口ができて、今4件の提案があるが市が期待している提案がなく担当課に話を持っていっても反応が薄い。</p>
座長	<p>提案内容をどう形にできるかみたいなどころでは、まずできるところからやってみることも一つの手だと思う。良い事例が1個できて、こんなものができるのであればと言った感じでそれに似たような良い提案が集まってくると思う。提案に対してどこまで高望みするかだと思うので、そもそもストライクゾーンを広く定義すれば良いと思う。また、例えば「こういう一定の基準を満たした提案に対しては、こういったバックアップがあります」といった感じで掲載し直すことはできるかもしれない。こういったものがあるだけでも全然違うと思う。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールはどんな感じか。</p>
座長	<p>次回だけでは終われない感じなので3月にもう一回議論し、4月にスライドを最終までまとめて5月に発表することではどうか。</p>

事務局	<p>それでは5月の発表を目標とする。</p>
座長	<p>以上で本日の会議は終了する。 お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">～閉会～</p>